

すすんで物事に取り組む子

福田 嘉子

はじめに

N男は、本校入学以前、地域や学校の友達からいじめられ、認められなかったという経験を持ち本校入学当時は情緒不安定で、高等部入学当初も、持っている能力でできそうなことでも、初めてのことや苦手なことには、自信がなく、失敗を恐れて取り組もうとせず、何事に対しても自分の力を精一杯出し切ることができなかった。そこで、本児の得意なことを生かしながら、本児が少しずつ自信をつけ、少々苦手なことにも進んで取り組もうとするようになった事例を述べてみたい。

1. プロフィール

(1) 生育歴

- 昭和48年6月4日生 18歳5か月 高等部3年(男)
- 出生時体重 2805g、離乳 5か月頃、首のすわり 4か月頃、発歯 11か月頃、歩行開始 1歳4か月頃、3歳児検診を受けた時、表出言語がみられなかった。8歳の時盲腸炎。
- 家庭保育2年、O保育園4年、O小学校1年、U小学校2年～6年(心身障害児学級)、本校中学部に入学、本校高等部に進学し、現在に至る。

(2) 諸検査による実態

- ① 田中ビネー式発達検査 田中B式IQ 60
- ② 運動能力テスト (「資料編」参照)
- ③ 体力テスト (「資料編」参照)
- ④ 性格・行動上の特性

- 家庭では、自分のことは自分でするようにしつけられており、自分のことは勿論、家事や手伝いも進んでしている。
- 生活力に比べて、基礎学力に劣る。
- とても優しく下級生や友達の面倒を進んでみることもあるが、反面気が小さいところもあり、人前に出るとなかなか実力が発揮できないことがある。
- 正義感が強く間違ったことを許さないが、時々友達とトラブルを起したり、自分の思い通りにならないことがあると、腹を立てて部屋に閉じこもり、逃げてしまうといった、精神的な弱さがある。
- 慣れていること、得意なことには進んで取り組むが、初めてのこと、苦手なことには、失敗を恐れてなかなか取り組もうとしない。
- 実力を出し切って、精一杯取り組むことがあまりない。

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

個人目標 進んで物事に取り組む子

つきたい力

- ・初めてのこと、苦手なことにでも、進んで取り組もうとする態度
- ・精一杯自分の力を出し切って、物事に取り組もうとする態度
- ・少々つらいことがあってもくじけない強い精神力
- ・最低限社会生活に必要な知識

からだづくりからの取り組み

からだの個人目標

力一杯からだを動かすことの充実感を体得し進んで取り組もうとする子

仮説

本児が、初めてのことや苦手なことに取り組もうとしないのは、自信がないため、経験不足のためと思われる。そこで、本児の得意なことを伸ばし、いろいろなことを経験させながら、自信をつけることによって進んで物事に取り組めるようになるのではないかと考えた。

また、特に運動場面で、精一杯自分の力を出し切ることがないのは、運動経験が不足しているため、運動の楽しさが分かっていないのではないと思われる。そこで、運動そのものの楽しさを味わわせながら、力一杯からだを動かすことの充実感を感じさせることによって、精一杯自分の力を出し切ることができるようになるのではないかと考えた。

その他の取り組み

学級会活動、児童生徒会活動等で、自分たちの力でものを作り上げたり、自分たちが中心になっているいろいろな活動を行なう中で、自主的に物事に取り組む態度を育てる。

実際に社会に出たり、校外の行事に参加することで、社会性を養ったり、社会の一員として自分を位置づけ、強い精神力を培う。

日常生活指導、教科学習の中で基礎学力を身に着ける。

(2) 指導の方針と手だて

①社会の中で、生きて働いていくことのできるからだ（意欲面）をつくる。

- ・学校生活の中や家庭において、いろいろなことに挑戦させ経験の拡大をはかる。一つでもできることを増やすことにより、劣等感を自信へと変えていき、のびのび、生き生きと何事にも取り組めるようになるかと考えた。また、友達に認められる場面を設定し、自信をつけることのできる機会を増やしたい。
- ・いろいろな場面で、苦手なことや、今持っている力では難しそうなことにも適切な配慮をしながら取り組ませ、苦手意識を克服し、何事にも挑戦してみようという意欲を養っていく。また、それに伴う技能面の向上もねらいたい。

②生きて働いていくことを支える耐久力のあるからだをつくる。

- ・からだを動かすこと（特に運動）の楽しさを味わわせ、すすんで力一杯からだを動かそうとする意欲を高める。それによって運動量の確保や運動能力、身体諸機能の向上をはかる。
- ・自分のからだの特徴をおおまかに知り、強化・改善していくべき点を自覚して、たくましいからだを養成していく。



マラソンをするN. S

3. 指導の実際

(1) からだづくり養訓（朝の活動「10分間走」での取り組み）

①ねらい

- 自分の目標に向かって力一杯走ることの充実感を味わわせる。
- 持久走をすることによって、筋力や全身持久力、心肺機能の向上を図る。
- 力一杯走ることにより、走ることそのものの楽しさを味わわせる。

②方針と手だて

- 力一杯走ることの充実感を味わわせる…毎時間走った後にめあてが達成できたかどうか確認し
達成できた時にはみんなの前で賞賛する。
- 目的意識を持たせる…目標とする先生や生徒、めあて（くしの本数）を決める場を設けたり、
マラソン大会での自己ベスト記録などを意識させて、すすんで10分間走
に取り組ませる。

③実践例

	平成元年4月	平成3年7月
10分間走への 取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> • 一応みんなと一緒に走ってはいるが、持っている力を精一杯出し切っていない。 • 自分のめあてをどうにか達成しようとまではせず、苦しくなるとすぐにあきらめてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のめあてを達成しようと、精一杯力を出し切って走るようになった。 • 少々からだの調子の悪い時でも、自分の体調にあった走り方ができるようになった。
めあての変容	12本	15本
1500m 走タイム	7分20秒	5分51秒

(2) 職業科（技能コース）

①ねらい

- 苦手なことや新しいことに挑戦しようとする意欲や態度を育てる。
- 確実な作業ができるような技術を習得する。
- 印刷工程の中で社会とのかかわりを意識させる。

②方針と手だて

- 自信をつけさせる一機械が好きなことを生かして、裁断機や製本機の使い方を他の生徒より先にマスターさせる。周りの人に認められる場面を作る。
- 段階を追って技術を習得させる。

- 技術を確実に習得させる一新入生に技術を教えることで、自らも確実に技術を習得できるようにする。

③実践例

『通知表作り』での実践

	最初の実態	取り組みを続けてからの変容
態度	<ul style="list-style-type: none"> • 興味があるが、自信がないため積極的に取り組みない。 • 製本の工程が理解できていないため、ペアの相手に大きな声で指示が出来ない。 • ミスをした時に報告が出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自主的に始業時間前に製本機のスイッチをいれて準備をする。 • 作業をしながらでも、下級生の質問に答えられる。 • ミスをする回数が少なくなり、ミスの報告もきちんと出来る。
技能	<ul style="list-style-type: none"> • 裁断機が目盛り合わせをいい加減にする。 • 通知表を1部ずつ裁断するため、仕事が遅い。作業手順に無駄が多い。 • 製本機の糊の量が減っても気がつかない。 • 糊づけのミスが多い。 • 表紙と中のバランスが悪い仕上りになる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1回ずつ確認をしながら作業をする。 • 3冊ずつまとめて裁断する。裁断したものを糊付けしやすいように置く。 • 糊の量の調節が、一人で出来る。 • 糊づけのミスが、殆どない。 • バランスを考え、きれいに仕上げる。

4. 考察及び今後の課題

各場面の実践によって、自信を持って意欲的に取り組める場面が増え、自ら進んで取り組む場面も見られた。特に運動場面での取り組みでは、運動経験を拡大させることによって運動そのものの楽しさがわかり出し、休憩時間にバスケットボールをしたり、自分のめあてを達成するために登校後の時間を利用して進んでジョギングをするなど、自主的な取り組みが見られるようになった。更に生活場面の取り組みとして、技能コースでは、いろいろな経験をし技能を少しずつ高めていく中で自信をつけ、自分の最も苦手とする「拾い」や「返し」にも、進んで取り組めるようになった。

現場実習でも、流れ作業のラインに遅れず、精密な仕事が一ヶ月あまりの期間、休まずにできるようになった。

今後は、特に職業科の中で培った「苦手なことにも立ち向かっていき、失敗してもまた始めから挑戦してみる」といった強い精神力が生活の中のあらゆる場面で発揮できるように指導を継続していきたい。



現場実習中のN. S